府内一斉に〝農地利用状況調査〟スタート

農地法に基づき農業委員会が毎年実施している「農地利用状況調査」。今年から「再生困難な土地（農地として利用が見込めない荒廃地）」は積極的に「非農地」と判断するという国の方針を受け、各市町村で調査員（農地利用最適化推進委員・農業委員・農区長など）への説明会が行われ、今年の調査が始まっている。

「非農地判断」を徹底　京丹波町農委会

京丹波町農業委員会では、今月6日に説明会を開催し、7日から来月5日まで利用状況調査を実施中。非農地判断を円滑に進めるため、昨年「再生困難」と判定した荒廃農地は調査対象から除外。今年の調査で新たに「再生困難」と判定する対象地は、担当委員が調査時に写真撮影し、事務局に提出する。

同町では非農地判断を慎重に行うため、調査結果を9月の農地部会で協議。異議がある場合は再確認した後、総会で承認を得て農地台帳から除外する予定だ。

遊休農地を活用、持続可能な農村めざす

「喜多駅プロジェクト」を展開

玉葱の収穫体験に市内外から6家族20人が参加、約1500個を収穫した（6月6日）

宮津市上宮津地区

宮津市上宮津地区の京都丹後鉄道・喜多駅では、眼下に広がる美しい田園景観を地域住民が大切に守ってきたが、最近は担い手の高齢化などで発生する耕作放棄地への対応が課題になっていた。

そこで、宮津市農業委員会の関野掲司会長と上宮津の村づくりや課題解決に取り組む「上宮津地域会議」の八尋慈教代表らが、2年前に「喜多駅プロジェクト」を立ち上げ。駅周辺の遊休農地を活用し、地域ぐるみで「農業の関係人口」を増やす多彩な活動を展開している。

昨秋、所有者から遊休農地20㌃を借りて整備し、ニンニク、玉葱、落花生などを植栽。上宮津ファンを増やすため、落花生のオーナー制度や収穫体験会を企画した。1家族5千円で10家族のオーナーを募集したところ、定員を上回る申し込みがあり、今春の収穫体験は大好評だった。

このプロジェクトには、上宮津に移住した農家も参加。地域農業の担い手育成や移住者の雇用機会を創出することをめざしている。

これらの活動の背景には、活発な地域コミュニティー活動がある。2010年に地域の将来ビジョンを実現するために設置された上宮津地域会議では、廃校のプールを活用したホンモロコ養殖や、移住者の受け入れに取り組み、地域の課題を住民主体で解決してきた。高齢化率は50％を超え、地域の主力は「年金受給者」だが、その大半が地域の協働活動に協力する即戦力で、70歳は若者という位置付けだ。

喜多駅プロジェクトも、同地域会議の事業の一環として有志8人が出資して推進しているという。

関野会長は、「地域の創意工夫で遊休農地の発生防止・解消に取り組む事例をまずは地域全域に広げていきたい」と意欲的だ。

（宮津市農業委員会）

京都　農村移住を応援！

8月28日『京都府田舎ぐらしフェア』

京都移住コンシェルジュの磯貝さん（右）と山崎さん

13市町村が相談ブース出展

京都府と農業会議（京の田舎ぐらし・ふるさとセンター）は、移住希望者を対象に仕事や住宅の情報を提供する『京都府田舎ぐらしフェア』を、8月28日、京都市下京区の京都産業会館ホールで開催する。

「移住相談コーナー」では、府内13市町村の相談員が地域の特徴や空き家の情報、移住者の支援施策などを紹介。就職や就農の相談ブースも設置する。同時開催する「移住セミナー」では、移住への準備に必要な情報や古民家リノベーション（改修）の実態（成功例・失敗例）を専門家がリアルに紹介する。

フェアを企画した京都移住コンシェルジュ（写真）は「どんな内容でも気軽に相談できるのが魅力。京都府での田舎暮らしの実現に向けて、私たちがサポートします」と参加を呼びかけている。

イベントの詳細はこちらの二次元コードから。

京都市上京区出水通洲小路東入丁子風呂町104-2
府庁西別館内
075・441・3660

学校給食の大豆、認定農業者と市民ボランティアが共同で栽培

八幡市農業経営者会議 × 八幡農業ボランティアの会

八幡市農業経営者会議（符川亮会長）は、5年前から非農家の市民ボランティアと共同で学校給食に使う味噌用大豆を栽培。今年も7月3日に総勢33人で3600株の苗を定植した。

畝立てや堆肥散布など定植前の作業は農家が行い、定植後の水やり・草刈りと収穫後の乾燥・選別は市民ボランティアが分担。定植（7月）と収穫（11月）は共同作業で行う。

農業経営者会議の符川会長（農地利用最適化推進委員）は「八幡市産の大豆で学校給食の味噌を作ること」と期待する。

八幡農業ボランティアの会（井尻雅之会長）は、大豆の栽培以外にも小学生の食育活動や都市住民の収穫体験を実施。メンバー全員が非農家の市民ボランティアだが、農家と協力して地産地消を推進する〝頼れるパートナー〟だ。

井尻会長は「市民が参加する収穫体験などを通じて、会員を増やし、地産地消の活動を続けていきたい」と意欲的だ。

（八幡市農業委員会）

大豆を定植した八幡農業ボランティアの会メンバー（7月3日）

農deきらきら

元気もりもり農園　舞鶴市　森 剛さん

万願寺甘とうを栽培する森剛さん、由理さん夫妻

おいしいはしあわせ

舞鶴市赤野地区でトマト、イチゴ、万願寺甘とう、佐波賀だいこんなどを栽培する森剛さん（40）。7年前に就農し「元気もりもり農園」を開業、有機質肥料による微生物の力を活かした土づくりに力を入れている。甘くておいしい野菜を生産し、多くの家族に笑顔や幸せを届けるため、妻の由理さんの意見や愛娘の反応を大切にしている。

地元小学校での出前授業や学校給食への野菜納品など、野菜を通じた食育や地域との関わりを広げる活動も継続。今年から指導農業士に認定され、農業後継者の育成などで一層の活躍が期待されている。

（舞鶴市農業委員会）

スーパーマーケットを中心とする流通業界に最新情報を発信する商談展示会
http://www.smts.jp/

SMTS 2022
SUPERMARKET TRADE SHOW
スーパーマーケット・トレードショー

中食産業の最新情報を発信する商談展示会
http://www.delica.jp/

デリカテッセン・トレードショー2022

会期　2022年2月16日（水）17日（木）18日（金）10:00～17:00（最終日は16:00まで）　会場　幕張メッセ［全館］　招待制

スーパーマーケット・トレードショーとは？

スーパーマーケット・トレードショーは、スーパーマーケットを中心とする食品流通業界に最新情報を発信する商談展示会です。全国のスーパーマーケットを中心とした小売業をはじめ、卸・商社、中食、外食など、多数のバイヤーにご来場いただいており、出展者の新たな販路やビジネスチャンスにつながる場として、今回で56回目の開催です。

デリカテッセン・トレードショーとは？

近年ますます需要が高まっている「お弁当・お惣菜」という分野に特化することで、商品レベルの向上、スタッフのモチベーション向上などを目的とし、お弁当・お惣菜売場をとりまく食品・食材、設備機器、包装資材、衛生管理、業界情報等に関する情報交流・商談の場を提供し、業界のさらなる発展を実現できるよう開催しております。

主催者企画　Bento and Prepared Meal Awards　お弁当・お惣菜大賞2022

new　特別企画　食のトレンドゾーン

「美と健康×食」「サステナビリティ×食」の2つのトレンドテーマに着目し、展開いたします。

「美と健康×食」
美しく健康的なココロとカラダづくりに役立つ商品
■ダイエット（糖質オフ・カロリーオフ）
■カラダづくり（高タンパク・高栄養・低脂質）
■ビューティー（美容・アンチエイジング・スーパーフード）
■ヘルスケア（減塩・低GI・アレルギー対応）
■ココロのケア（リラックス・ストレスフリー・ギルトフリー）
■機能性（特定保健用食品・機能性表示食品・栄養機能食品）
■ケアフーズ（サプリメント・健康食品・介護食・医薬部外品）

「サステナビリティ×食」
サステナビリティ（持続可能性）に配慮した商品
■植物性・プラントベース
■ベジタリアン・ヴィーガン・ハラール
■有機食品・オーガニック・自然食品
■サステナビリティ
■環境・認証ラベル
■SDGs
■食品ロス・リサイクル・アップサイクル

主催　一般社団法人 全国スーパーマーケット協会 National Supermarket Association of Japan

出展者募集期間　受付開始 2021年8月4日（水）12:00　受付終了 2021年8月11日（水）15:00

■ソーシャルディスタンス確保のため通路を広く取ります。
※各展ウェブサイトからお申込ください。
※締切前に申込が募集小間数に達する場合もございますので、お早目にご検討ください。